

NYに狂犬病の脅威

感染アライグマ40匹確認

【ニューヨーク時事】ニューヨークのマンハッタ同層ビルが林立する米ニン地区に、狂犬病の脅威

が忍び寄っている。感染したアライグマが今年に入り、セントラルパークなどで相次いで確認され、人がかまれる被害も発生。関係機関が緊急対策に乗り出す事態となっている。

市保健当局によると、同地区で1月から1カ月余りの間に、狂犬病感染

が確認されたアライグマは40匹。2008年までの6年間はコウモリ1匹の感染の報告例があるだけで、急増ぶりは明らかだ。

大半は年間2500万人が訪れるセントラルパークで「既に死んだか、症状が表れた状態」（市担当者）で見つかった。このため、市などは同公園を中心にわなを仕掛け、捕らえたアライグマにワクチンを接種、まん延を食い止める方針を決めた。

狂犬病は発症すると、ほぼ100%死亡するとされる。ニューヨーク市では昨年12月以降、市民2人と犬1匹がアライグマにかまれるなどして感染したが、早期の処置で発病を食い止めているという。

同公園にはアライグマが多数生息しているとみられ、犬の散歩で訪れた男性は「早朝来ると、アライグマの親子がよくごみ箱をあさっている」

と話した。感染拡大の理由は不明だが、市は「特に不自然な動きをしている動物には近づかないでほしい」と呼び掛けている。